

製品安全データシート

MSDS No. 0001

作成日：2012/10/08

1. 製品及び会社情報

製品名：5% ぎ酸

会社名：株式会社 PG リサーチ

住所：東京都小平市花小金井 4-13-11

電話番号：042-466-3931

FAX 番号：042-466-3931

製品コード：ARD-E1

緊急連絡先：株式会社 PG リサーチ（電話 042-466-3931）

整理番号(MSDS No.)：0001

2. 危険有害性の要約

GHS 分類：

皮膚腐食性/刺激性：区分 1A

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性：区分 1

急性毒性：吸入：区分 5

生殖毒性：区分 2

特定標的臓器/全身毒性（単回暴露）：区分 1（血液、肝臓、腎臓、呼吸器系）

特定標的臓器/全身毒性（反復暴露）：区分 1（腎臓）

GHS ラベル要素：



危険

危険有害性情報：

重篤な皮膚の薬傷

重篤な眼の損傷

吸入すると有害のおそれ

生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い

臓器の障害（血液、肝臓、腎臓、呼吸器系）

長期又は反復暴露による臓器の障害（腎臓）

注意書き：

【安全対策】

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

取り扱い後はよく手を洗うこと。

ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

汚染した衣類は再使用する場合には洗濯すること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚（または毛）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。

暴露または暴露の懸念のある場合：医師の診断/手当てを受けること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物/容器を適切な焼却炉で焼却するか都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

上記で記載がない危険有害性は分類対象外または分類できない。

3. 組成、成分情報

化学名：ぎ酸

濃度又は濃度範囲（含有量）：5%（水溶液）

化学特性（化学式）：HCOOH
分子量：46.03
官報公示整理番号(化審法・安衛法)：2-670
CAS No.：64-18-6
危険有害成分：ぎ酸

4. 応急措置

吸入した場合：

新鮮な空気の所へ運び、安静保温に努め、直ちに医師の手当を受ける。

皮膚に付着した場合：

多量の水および石鹸で洗い流す。症状がでた場合には、必要に応じて医師の診断を受ける。

目に入った場合：

直ちに多量の水で15分以上洗い流す。きれいな指で瞼の裏をめぐって洗い流す。直ちに医師の手当を受ける。

飲み込んだ場合：

口をすすぎ、無理に吐かせてはならない。直ちに医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤：

本品は不燃物であるため、周辺火災に適した消火剤を用いる。

火災時の特有危険有害性：

本品自体には燃焼性はほとんど無い。

特有の消火方法：

移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周囲を水噴霧で冷却する。

消火を行う者の保護：

消火活動は風上から行い有害なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項：

漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

回収、中和：

乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。残りは大量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：

長期や繰り返しの接触、暴露は避ける。

注意事項：

容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。

漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気を発生させない。

使用後は容器を密閉する。

取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。

休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。

取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

安全取扱い注意事項：

吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。

屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。

保管

適切な保管条件：

容器は遮光し、換気のよいなるべく涼しい場所に密閉して保管する。

技術的対策：

涼しい所/換気の良い場所で保管すること。

日光から遮断すること。

混触禁止物質：

酸化剤並びに酸化性の強い物質との保管は避ける。

容器包装材料：ガラス、耐薬品性のプラスチックなど。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、発生源を密閉し、局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに、目の洗浄および身体洗浄のための設備を設置し、その場所を表示する。

管理濃度 作業環境評価基準：

設定されていない

許容濃度：

OSHA PEL：air TWA 5ppm

ACGIH TLV(s)： TWA 5ppm、STEL 10ppm

日本産業衛生学会： 5ppm、9.4mg/m³

保護具：

呼吸器の保護具： 保護マスク

手の保護具： 不浸透性保護手袋

目の保護具： 側板付き保護眼鏡（必要によりゴーグル型）

皮膚及び身体の保護具： 長袖作業衣

9. 物理的及び化学的性質

形状：液体

色：無色

臭い：データなし

pH：酸性

融点：データなし

沸点（初留点）： データなし

引火点：データなし

自然発火温度：データなし

爆発範囲（上限・下限）：データなし

蒸気圧：データなし

比重：データなし

溶解度

溶媒に対する溶解性：水、アルコール、エーテルに易溶

n-オクタノール/水分配係数 log Po/w： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性：光により変質する。

危険有害反応可能性：データなし

避けるべき条件：日光、熱、裸火、高温、スパーク、静電気、その他発火源

危険有害な分解生成物：一酸化炭素

11. 有害性情報

水溶液としてのデータはないため、99%ぎ酸としてのデータを記す。

急性毒性：経口 ラット LD50: 1100mg/kg (RTECS)

経口 マウス LD50: 700mg/kg (RTECS)

皮膚腐食性・刺激性：皮膚刺激 ウサギ 610mg 軽度、開放系 (RTECS)

眼に対する重篤な損傷・刺激性：目刺激 ウサギ 122mg 重度 (RTECS)

生殖細胞変異原性：データなし

発がん性：データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

魚毒性：データなし

残留性／分解性：分解度：110% by BOD（経産省既存化学物質安全性点検）

生体蓄積性：データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：

燃焼法；アフターバーナーを具備した焼却炉の火室へ噴霧し、燃焼する。

酸化法；水酸化ナトリウム水溶液等でアルカリ性とし、過酸化水素水を加えて分解させ多量の水で希釈して処理する。

廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。

なお上記方法による処理が出来ない場合は都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器及び包装：空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号：3412

品名：ぎ酸（濃度が5%以上10%未満のものに限る）

国連分類：クラス 8（腐食性物質）

容器等級：PG III

海洋汚染物質：非該当

注意事項：輸送前に容器の破損、腐し、漏れ等がないことを確認する。

転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

直射日光を避ける。

15. 適用法令

消防法：非該当

毒物及び劇物取締法：非該当

労働安全衛生法：法第57条の2(令第18条の2)名称等を通知すべき有害物 No.132

船舶安全法（危規則）：腐し、性物質

航空法：腐食性物質

海洋汚染防止法：施行令別表第1 有害液体物質 Y類物質

化学物質管理促進法(PRTR法)：非該当

16. その他の情報

引用文献：

1. 危険物防災救急要覧—化学物質の性状と取扱い—（社）神戸海難防止研究会編 成山堂書店(1991)
2. 産業中毒便覧 後藤稠 他編 医歯薬出版（株）(1977)
3. 米国O S H A 危険有害性の周知基準—規則と有害性化学物質リスト—（第4版）社）日本化学物質安全・情報センター(1989)
4. 通産省公報 平成5年12月28日
5. Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM（2002）
6. 14303の化学商品 化学工業日報社（2003）

本データシートは、試薬に関する一般的な取扱いを最新の情報に基づいて記載しておりますが、すべての情報を網羅しているものではありません。

新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。

記載されている値は安全な取扱いを確保するための参考情報であり、いかなる保証をなすものではありません。

その場の使用環境に応じて安全対策を実施してください。